

## 令和3年度第1回災害廃棄物対策東北ブロック協議会 議事録

日時	令和3年9月3日(金) 13:30~15:00	場所	オンライン
出席者	東北大学 大学院環境科学研究科 教授 吉岡氏 岩手大学 理工学部システム創成工学科 准教授 大河原氏		
	青森県・中野渡氏、青森市・平井氏、南部町・大羽澤氏、盛岡市・山本氏、釜石市・松岡氏、 宮城県・沼澤氏、仙台市・大築氏、丸森町・加藤氏、秋田県・佐藤氏、大館市・黒田氏、山 形県・新関氏、山形市・六沢氏、河北町・今田氏、福島県・井出氏、福島市・甚野氏、いわ き市・大須賀氏、 一般社団法人宮城県産業資源循環協会・川名氏、 一般社団法人宮城県建設業協会・西村氏、 宮城県解体工事業協同組合・佐藤氏		
	国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課 課長補佐		佐藤氏
	環境省東北地方環境事務所 所長	中山	
	環境省東北地方環境事務所 資源循環課長	草刈	
環境省東北地方環境事務所 資源循環課課長補佐	菅原		
環境省東北地方環境事務所 廃棄物対策等調査官	佐々木		
日本エヌ・ユー・エス株式会社	井川、高橋 後藤、坂爪 山本		
項目			
1. 開会			
2. 開会挨拶			
<p><b>(東北地方環境事務所・中山)</b> ご紹介いただきました中山でございます。本日は大変お忙しい中お集りいただいたこと感謝申し上げます。</p> <p>はじめに、2020年7月豪雨災害、2021年2月13日の福島県沖地震、3月20日宮城県沖地震、8月10日の台風9号被害と多くの災害がありました。災害被災者にお見舞いを申し上げます。被災した自治体は対応に追われる日々かと思いますが、環境省としても様々な関係者と連携しながら課題について対応を進めて参りたい。復興の第一歩は常に災害廃棄物の整理から始まりますが、関係者の対応の高度化が求められています。そのためには個々の経験を共有する必要があります。その共有の場として、本協議会の意義はますます大きくなると考えられます。脱炭素化社会、サーキュラーエコノミーの進展と併せて、廃棄物行政も循環経済行政への変化が求められることと思います。環境省は地域循環共生圏を推進しておりますが、地域の皆様と連携して進めて参りたいと思っておりますので、皆様のご協力・ご尽力をお願いいたします。本年協議会では、災害廃棄物行動計画改訂素案の体制づくりについて議論を深めるとともに、普及啓発も各県のご要望に応えながら進めて参りたいと思っております。忌憚ないご意見をお願いいたします。</p>			
3. 日本エヌ・ユー・エス株式会社（以下「JANUS」という）井川より配布資料の確認。また令和3年度本協議会会長に東北大学大学院の吉岡敏明教授が選出された。			
<p><b>(吉岡会長)</b> 東北大学吉岡と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。昨今の水害・地震災害では幅広い観点から災害廃棄物対策を考えていく必要があります。本協議会で行動計画をしっかりと議論することが大きな役割になると考えられます。様々なご意見をいただくとともに情報を共有しながら作成して参りたいと思ひます。</p> <p>それでは議題の方に参りたいと思ひます。</p>			
4. 「令和2年度協議会活動報告について」について、JANUS 後藤より説明。 ⇒特に議論なし			

5. 議題 (2) 「令和3年度協議会活動計画について」について、JANUS 後藤より説明。  
(吉岡会長) このような形で今年度計画をしたい。意見があれば適宜情報をお寄せいただきたい。
6. 議題 (3) 「令和3年度 令和元年東日本台風における災害廃棄物処理の振り返り及び災害廃棄物処理計画作成支援等調査業務実施概要」について、東北地方環境事務所佐々木より説明。  
(吉岡会長) 計画支援の検討会を11月と1月に予定とあるが、進捗はいかがか。  
⇒ (東北地方環境事務所・佐々木) 請負業者が対象市町村と調整しているところである。  
(吉岡会長) 10月予定の座談会については、開催形式の方向性は決まっているか。  
⇒ (東北地方環境事務所・佐々木) 現時点では対面形式を想定しているが、状況によってはWEB開催を検討したい。ハイブリッド形式についても検討したい。
7. 議題 (4) 「災害廃棄物対策東北ブロック行動計画(改訂素案)」及び「東北ブロック災害廃棄物処理支援チーム運営マニュアル」について、東北地方環境事務所草刈より説明。  
(吉岡会長) 東北ブロック災害廃棄物処理支援チームについて詳細にご説明をお願いしたい。  
⇒ (東北地方環境事務所・草刈) 令和元年東日本台風では人的支援が不足し、丸森町、角田市、柴田町は最終的には九州の自治体から支援をいただいた。東北地域内で迅速な支援を行う体制が必要であった。また、支援する側と支援業務のマッチングが図れていないなどの課題もあったことから、被災自治体のニーズを把握し、それに沿った支援を行うための改訂となっている。  
⇒ (東北地方環境事務所・草刈) 7月豪雨の際の大石田町には、宮城県から大崎市、涌谷町から仮置き場の管理の部分で支援があった。支援自治体の方が現場でビブスを着て指導されていた。これは自主的な管理であったが、環境省が支援チームを組み、そのような支援の形が取れると良いと考えている。  
(吉岡会長) 本年のセミナーについても支援側を意識した内容となっている。セミナーとの関係をご説明いただきたい。  
⇒ (JANUS・後藤) 支援する側からみた課題を受援側と共有することで、支援活動の円滑化を推進するねらいで計画している。行動計画の改訂素案についても支援側の改訂が加えられていることから合致する内容となるかと思う。  
(吉岡会長) 支援の在り方として、民間支援団体からご発言をお願いしたい。  
⇒ (宮城県解体工事業協同組合・佐藤氏) 実際に丸森、角田について解体支援を行ったが、角田市は行政のほうに人材が不足していると感じた。大前提として行政側には定期的な異動があり、ノウハウを継承していくことが非常に難しく、何か別の方法がないかと思っている。  
(吉岡会長) 実際に現地で作業を行う際には行政側からの指示が必要と思う。行政側の指示は民間団体に指示が伝わったのか、ミスマッチの部分があったか？  
⇒ (宮城県解体工事業協同組合・佐藤氏) 行政と被災者の間のやり取りを見ていると、民間団体が実施する作業の線引きがかなり不明瞭であったと思う。家屋や藪からのごみの運びだしなど、最初の想定より逸脱した作業まですることになった。全体的に指示が行き渡る必要がある。小さな自治体では、住民と自治体職員との距離が近いことから、住民から頼まれれば職員も断わりづらい面もあるのかと思う。  
(吉岡会長) 支援側の人材として、災害廃棄物行政に詳しくない職員であっても支援の意味はあると思うが、いかがか。  
⇒ (東北地方環境事務所・草刈) 災害廃棄物行政に精通していなくても、わからないところを聞く相手を知っていれば、人に聞きながら対応することもあり得ることから、支援側が全てに精通する必要はないと思う。民間団体への負担についても環境省として把握していない部分であったが、今後の指導の際の糧にして参りたい。産業資源循環協会では支援マニュアルも作成されていることから、各地域への支援の際の参考としていただきたい。また、民間団体の立場から自治体へご意見、指導をしていただくことも良いのでは、と思う。例えば分別についても、処理方法によっては分別が不要の場合もある。自治体でもわかっていない部分の支援となるため、有用である。引き続きご支援をお願いしたい。
8. 議題 (5) 「東北ブロックにおける令和2年7月豪雨災害対応状況に係る振り返りについて」について、東北地方環境事務所草刈より説明。

(東北地方環境事務所・草刈) 青森県における水害対応状況について、青森県さんにご説明をお願いしたい。

⇒ (青森県・中野渡氏) 青森県には大きな河川がないが、小さい河川でも短期間の豪雨時には家屋への被害などが発生することを痛感した。被害地域が限定されているため、災害廃棄物の撤去が進んでおり、可燃ごみの収集運搬がおおむね終了し、今後は粗大ごみや家屋解体ごみが出てくる状況である。2市町では一人の職員への負担が大きいなか、うまく対応されていると思う。今後も補助金申請など環境省にご教示をお願いしたいと考えている。

(吉岡会長) 7月豪雨の対応状況について、山形県、秋田県からコメントをいただきたい。

⇒ (秋田県・眞柄氏) 廃棄物処理施設で一部法面の崩壊があり、被害を受けた。今年度は大きな災害は発生していないが、日頃の備えとして初動体制の確認など行っている状況である。

⇒ (山形県・新関氏) 昨年度の災害は、山形県ではこれまでに経験したことのないような大規模なものとなったが、環境省東北地方環境事務所の皆様から現地をご確認いただき、補助金の交付申請にご助言をいただくことにより、年度内に処理を終えることができた。

#### 9. 議題 (6) その他

⇒ (岩手大学・大河原准教授) 本年のむつ市の被害状況と対応について情報共有したい。国道 279 号線沿いの約 10km 区間が主に被災しており、斜面崩壊が 51 カ所、土石流が 10 カ所、計 61 カ所の土砂災害を確認している。砂防堰堤でせき止めることができた場所もあったが、海まで流出している場所もあり、現在調査中である。

#### 10. 閉会挨拶

(東北地方環境事務所・草刈) 急遽、WEB 開催としたことでご面倒をおかけしました。また WEB 開催の特性上、皆様がお話しされたい部分が伝わりにくかった部分もあり、申し訳ございませんでした。今後は提案させていただいた内容で進めて参ります。人材育成事業についても環境省としては全てに参加していく所存ですので、引き続きよろしく願いいたします。

本日は大変にありがとうございました。

以上